

2022年10月1日

学校関係者評価報告書

学校法人 葛谷学園
中和医療専門学校

自己点検・自己評価実施委員が作成した「2021年度自己評価表」を基に学校関係者評価を行いました。その結果を以下の通り報告します。

1. 学校関係者評価委員会

学外委員（五十音順）

伊藤 秀雄 氏（クローバー治療院グループ代表 本校卒業生）
小川 稔 氏（小川鍼灸院院長 本校卒業生）
深井 和教 氏（保護者）
藤川 和秀 氏（愛知県柔道整復師会副会長）
村田 守宏 氏（むらた鍼灸院院長 本校卒業生）
野々部 美妃 氏（保護者）

学内委員

楠本 高紀（中和医療専門学校校長）
清水 洋二（中和医療専門学校副校長・あはき関係科学科長兼務）
葛谷 壽彦（柔道整復科学科長）
戸崎 素成（柔道整復科臨床実習施設長）
二村 浩之（あはき関係科学科長補佐・校務主任兼務）
加藤 俊亮（あはき関係科実技主任）
太田 康晴（柔道整復科学科長補佐・校務主任兼務）
森 輝久（中和医療専門学校事務局長）
吉野 真二（中和医療専門学校事務局職員）
平野 良彦（中和医療専門学校事務局職員）

2. 学校関係者評価委員会会議

第1回 2022年6月26日 14：00から16：10
第2回 2022年7月31日 14：00から16：00
場所：各回とも3号館会議室

3. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見等

分類	コメント（意見・評価・回答）
<p>基準</p> <p>1</p>	<p>(1) 評価できる内容と思われます。</p> <p>【回答】</p> <p>ありがとうございます。今後も引き続き活動してまいります。</p> <p>(2) 卒業生として、また後継スタッフの紹介卒業、次男、長女の紹介卒業を通しまして、教育理念と目標は最も重要であると自覚します。3つのポリシーを根本的な土台として深めていただきたい。</p> <p>1-1-3 (ウ)「カリキュラム内容の検討を次年度以降行っていく」ということですが、昨年コメントのあった「三つのポリシーの具現化」や「挨拶指導」も含め、より具体的、取り組みやすい内容を検討して頂きたい。</p> <p>【回答】</p> <p>ポリシーを深めていく上で、卒業後どのような力をつけているのか、社会に出て何が必要か、業界の声などに耳を傾け、社会のニーズを汲み取っていききたい。目標達成評価につながる国家試験の合格率や就職など数字で見える化するなど取り組んでいる。</p> <p>現在のカリキュラムに変わって4年目であり、一通りこなして来たところ。来年度以降に国の方針もあり見直しの動きがあるのではないかと考えている。臨床実習の単位を増やすことが望ましいという点、第三者評価義務付けの方針等更に変わっていくと考えている。そのような状況も踏まえ、第三者の現場の方の意見を聞きつつカリキュラムを検討している。</p> <p>(3) 確かな施術者になる為の知識や技術を指導するのみではなく、個人の人格や人同士の関わり（社会性）を大切に考えられている事は素晴らしいと思います。1-1-3の挨拶指導とは、具体的にはどのような指導ですか？</p> <p>あいさつが徹底されている学校はかなり厳しく指導されていると聞く。中和も厳しくしてもよいのではないかと。</p> <p>【回答】</p> <p>挨拶運動については将来患者様との関わりでコミュニケーションの基本として重要であると考えている。入学式からあいさつについて触れているが、現状では少し寂しく思う部分があるので、再度伝えて「おはよう」などの基本から根付かせていきたい。</p>

<p>基準 2</p>	<p>(1)この2年の社会情勢の変化（コロナ禍等）に順応した学生への対応を今後も望みます。 【回答】 コロナ対策としては毎週対策会議を開催し、感染状況に応じた授業などの対応を検討している。コロナに限らず、変化していく社会情勢に対応していきたい。</p> <p>(2)理念に沿って学園役員の方々と教職員の方々が日常的にもコミュニケーションが取れるように工夫がなされると更に良いと思いました。ストレスフリーの SNS などの活用も良いのでは。 【回答】 立場によって考え方の違いはあるので、定期的に話し合いの場を設けている。SNS などのサービスを通してではなく、対面で向き合うことを重視している。相互の意見を交え、今後に繋ぎたい。</p> <p>(3)学校運営に関して、令和3年度の特徴は何かありますか？ 【回答】 令和3年度特有のものはないが、近年の傾向として生徒数の減少があるので駐車場など教育に影響のない範囲から固定費の削減等経費の見直しをしている。</p> <p>(4)昨今のコロナ禍において、諸々の検討事項に対応されてこられた事は、ご苦勞であったと思います。オンライン授業をはじめ、学生達の学びを継続していただいて感謝しております。 【回答】 今後も検討を重ね、よりよい教育を提供していきたい。</p>
<p>基準 3 本科・専科</p>	<p>(1)コロナ禍によるDX（デジタルトランスフォーメーション）化が社会的に促進され、社会における教育システムにおいても映像化による反復学習効果が重要になってきていることへの対応を始める必要がある。 【回答】 現在のカリキュラムを前提として、教育活動についてIT技術で完結する土壌はまだ十分ではなく、時期尚早のタイミングだと考えている。対面とオンラインを完全互換とすることは今のところできない。映像教材などは少しずつ充実させてもよいとは考えているが、作製の労力や環境などの課題がある。現状ではすぐに導入できる環境ではないが、必要になっていくことでもないと認識している。</p> <p>(2)シラバス作成に関して、「外部委員からの意見を反映させる」のは、現時点でどのくらい具体的に決まっているのでしょうか？ 開始時期、委員、内容等。 【回答】 教育課程編成委員会にて年2回検討を行っている。業界の現場の先生に参加いただ</p>

	<p>き、ご意見を元にシラバス作成をしている。社会のニーズは多岐にわたり全てを実現するのは難しいのでカリキュラムに全てが反映されるわけではない。</p> <p>(3) 学生による授業アンケートについて検討が必要と思われる具体的な理由は何でしょうか？</p> <p>【回答】 数年前よりアンケートを実施している。各授業で講師の先生は自分の知識と技術を生徒に伝えてもらっているが、授業姿勢が厳しい先生などは授業のクオリティがアンケートの評価に反映されないこともある。アンケート項目そのままのフィードバックではなく、アンケートの結果をフィードバックする適切な方法について検討していかなければと考えている。</p>
<p>基準 3 柔軟 整科</p>	<p>(1) 教育内容に応じた学生の資質向上を願います。</p> <p>【回答】 努力を続けていきます。</p> <p>(2) コロナ禍によるDX（デジタルトランスフォーメーション）化が社会的に促進され、社会における教育システムにおいても映像化による反復学習効果が重要になってきていることへの対応を始める必要性がある。</p> <p>【回答】 他学科と同様に現段階では制度的にもデジタル化に置き換える土壌が整っていない。将来的には導入は進むのではないかと考えている。</p> <p>(3) 附属接骨院以外で臨床実習を行うことは難しいでしょうか？ 例えば、スポーツ大会への派遣。</p> <p>【回答】 現在は校内のみでの臨床実習だが、コロナの状況にもよるが、スポーツ大会も参加させていきたい。臨床実習も3月には外部施設でも行う方向で検討している。</p> <p>(4) 卒業生の開業先で研修させてはどうか。</p> <p>【回答】 校外で臨床実習を行うには、受け入れ側の先生も臨床実習指導者講習会で講習を受ける必要があるなど、誰でも臨床実習として受け入れられるわけではない。現在受け入れ可能な施設10施設と話が進められている。 臨床実習としてではなく、見学という形で現場を知ってもらう事は問題ないので、臨床実習以外でも現場を知るきっかけがあれば促進したいと考えている。 あはき学科の方では夏休みに希望者に対して卒業生の治療院などを見学をする機会を設けている。今年度については卒業生を含め15件の協力を受けることができた。</p>

	<p>ボランティアについてはコロナの影響でイベントが軒並み中止という事もあり、コロナ感染拡大以降行っていない。</p>
<p>基準 4</p>	<p>(1) 学習成果が上がらないため、国家試験の合格率が下がってきている原因と思われる。先生方の努力は十分理解しておりますが、学生とのギャップがあるのでは？</p> <p>【回答】 学生の年齢層が幅広く、世代や個人での個性の差が以前より大きくなってきているように感じる。集団への一律の対応よりも個人指導を中心に指導するようになった。新入生には既に個別で面談を実施し学生の特徴を把握したところである。学生個人を客観視できるよう、基礎学力と資格取得へのモチベーションを計る外部サービスの利用も始めた。</p> <p>(2) 過去の求人先の内訳や、卒業生の10倍もある求人先の内訳の推移も、今後は重要になると思います。</p> <p>【回答】 求人の内訳としては、昨年度は求人をお願いした事業所数は346社、あはき関係が182社・柔整関係が164社だった。件数としてはあはき関係職1703件、柔整関係1241件の計2944件。2021年度は他県から大手の求人が増えてように感じる。</p> <p>(3) 企業説明会について。令和2年度と3年度の違い、その結果について教えてください。</p> <p>【回答】 令和2年度と3年度についてはコロナ感染に配慮し従来の対面方式ではない形式で「企業展」として開催した。内容としては御協力いただいた事業所様に共通のPRシートを記入・提出していただき、各社の資料展示やPRビデオ上映で就職に関する情報の提供を行った。運営上の細かな改善はしているが、大幅な年度による内容の違いは無い。参加した学生に対し行ったアンケート調査によると、企業展に対して何を望んでいたかについては「就職先の確保」11%、「就職先の情報」60%、「業界の情報」27%という内訳であった。満足度については「非常に良かった」15%、「よかった」82%、「悪い」3%であった。</p> <p>(4) 卒業生の10倍を超える求人があるとの事で、これは学校に対する信頼の高さと施術資格者への社会的ニーズの大きさであり、学生の皆さんには誇りに思ってもらいたいし、より一層熱意を持って取り組んで頂きたいと感じました。</p> <p>【回答】 学校創立以来65年続いた中で、卒業生たちから求人をいただいたり、中和卒の学生の評判を高めていただけた影響は大きい。今後もしっかりと取り組んでいく。</p>

	<p>(5)最近の学生は雇用条件の社会保障の部分を重視しているが理由はあるのか。</p> <p>【回答】 保護者の意向で社会保険など重視しているとの声を聞く。</p>
<p>基準 5</p>	<p>(1)このまま維持して頂きたい。</p> <p>【回答】 ありがとうございます。できる限り学生の力になっていきたい。</p> <p>(2)地道で大変な面がある項目ですが、中和医療専門学校の校風として今後の時代の強みとする項目でもあると思います。</p> <p>【回答】 就職や就学支援等、今後も維持していきたい。</p> <p>(3)コロナ禍に於いての卒業生の就職状況についてどの様な企業に就職しているか。ボランティア活動について費用は本校が負担しているが、もしボランティア活動中に最悪の状態（骨折・折滅）等があった場合どこが責任を持つか？主催者か、本校か、現場の責任者か、それは確認できているか。</p> <p>【回答】 学校が責任を持ち必ず教員が引率する。</p> <p>(4)中途退学者が令和2年度よりも増加したことについて、その原因を現時点でどの程度把握されていますか？</p> <p>【回答】 令和2年度が少なく、令和3年度はそれ以前の数字に戻ったというのが全国的な傾向で、本校でもその傾向であるように思う。退学の申し出が夏休み明けに集中したので、従来は夏休み後に試験を行っていたが、今年度は夏休み前に行う。少しでも学生の気持ちが切れないように配慮していきたい。</p> <p>(5)社会へ出て活躍されている卒業生同士の交流や情報交換は有意義であると思います。学校が提供してくれる機会を活用してくれると嬉しく思います。また、就職活動未経験の学生に対して学校が支援して頂いている事に、一保護者としてありがたく思います。</p> <p>【回答】 同窓会の集まりも近年はコロナの影響で中止が続いているが、卒業生や在校生が交わる勉強会等を企画している。今後も交流を促したいと考えている。</p>

<p>基準 6 本科 ・ 専 科</p>	<p>(1)私が卒業後は、校舎も新しくなり、環境整備の向上は飛躍されたように感じております。</p> <p>【回答】 ありがとうございます。新校舎となり 7 年が経ちましたが、来校者の評判も良く、今後も維持していきたいと思います。今後の課題として、教材の模型や PC 機器などが古いものがあるので更新していけたらと考えております。</p> <p>(2)令和 3 年度、コロナ感染者数について、本科・専科・柔整科学生、職員、附属治療所の患者さんについて、その数を教えて頂きたい（クラスターは発生していないか?）。</p> <p>【回答】 令和 3 年度のコロナ感染者につきましては、学生は本科専科 13 名・柔整科 4 名の計 14 名でした。教員については非常勤講師含め 4 名。患者さんについては感染報告はありませんでした。令和 4 年度は感染者や濃厚接触者に関する基準が変わってきている部分がありますが、本校では学内で感染を広めないように感染者、濃厚接触者ともに 10 日間の出校停止の基準は変えずに運用しています。状況によってはクラス単位で出校停止にすることも考えています。</p> <p>(3)施設、安全管理は適切に整備されていると思います。</p> <p>【回答】 今後も適切に管理してまいります。</p>
<p>基準 6 柔 整 科</p>	<p>(1)カリキュラムの増大に伴い、先生も学生も大変ではあると思いますが、これを克服しなければますます、落ちこぼれが生まれる。</p> <p>【回答】 授業だけでは結果がついてこない学生の為に放課後に学習に使える施設を提供したり、質問に答えられる体制をつくるなどのフォローをしています。今後も状況をみて学生の力になるよう仕組みを考えたい。</p> <p>(2)地道な環境向上努力に期待致します。</p> <p>【回答】 様々な状況がありますが、一つ一つ対応していきたい。</p> <p>(3)学校外で臨床実習施設を確保していく事は簡単では無いと思いますが（特にコロナ禍では）、良い連携先が増えるよう御支援頂きたいと思います。</p> <p>【回答】 臨床実習施設は現在 9 施設の協力をいただいているが、コロナの感染状況から外部での臨床実習は行えなかった。学生への聞き取り調査では半数が外部での実習を望</p>

んでいる。状況によるが2023年春には外部での臨床実習を行っていききたい。

(4) 学生は外部での臨床実習に何を望んでいるのか？

【回答】

臨床の実際の現場を見たいという意見が多く、外傷への対応や施設・職場見学のような興味のものまで、学生によってさまざまな状況です。

(5) 学生を受け入れても自己紹介もできない、包帯が巻けない、など臨床に出る以前の学生がいる。臨床に出る前に今一度基本中の基本の部分教えてほしい。実習の評価がつけられない場合があり、対応が難しいこともある。

【回答】

ご意見ありがとうございます。基本の部分について指導を進めていきます。

基準 (1) 今の社会情勢で各学科総てに募集がオーバーする事はないが、学校運営上、生徒あつての学校であるため、専門学校の良さ（合格率）を知らしめる事が第一！

7 【回答】

学生にとって国家資格取得が最大の目的であるので、本校としても最大限目的の達成に向けて活動してまいります。

(2) 卒業生の立場として安心して紹介できる状況にはあります。活躍されている卒業生の紹介は重要だと思います。

【回答】

受験志望者にとっても資格取得後の将来像がリアルに伝わる為、今後もHPや学校案内などで紹介させていただけたらと考えています。

(3) 「活躍する卒業生」といってもいろいろな活躍がある。業務の規模の大きさなども大切かもしれないが、業界としてはスポーツ分野や地域の患者様と向き合う事など「この資格ならではの活躍」を見てもらって、一生の仕事として誇れるものであるという事を伝えてほしい。

【回答】

就職先として卒業生がいる企業を学校としてはビジネススタイルでの扱いの区別はつけづらく思っている。学校や資格のアピールで卒業生に協力いただくときはビジネススタイルや規模というよりは資格でできる仕事が伝わるように施術の特徴や活躍する分野で協力いただくことが多い。業界で活躍する卒業生も多いので相談しつつアピールできればと考えている。

(4) 令和4年度の入学生の状況と各学年の学生数はどの様になっているか。コロナ以前は私の処に時々入学希望者から相談があったが、コロナ禍においては全く相談が

	<p>ない。コロナ禍に於いての生徒募集についてはどの様にしているか。</p> <p>【回答】 令和4年度の入学生は本科70名・専科19名・柔整科Ⅰ部16名・柔整科Ⅱ部11名です。2年生は本科68名・専科21名・柔整科Ⅰ部13名・柔整科Ⅱ部6名、3年生は本科66名・専科28名・柔整科Ⅰ部15名・柔整科Ⅱ部8名です。コロナ禍における学生の募集は、学生に直に接するイベントの中止が相次ぎ、インターネットを利用したものが増えました。志望者側もインターネット経由で情報収集を進めていたようで、インターネット経由での資料請求などはコロナ禍前と比較するとかなり増えています。</p> <p>(5) 2021年の受験者数は？ 172名(2019年) → 153名(2020年)</p> <p>【回答】 143名です。</p> <p>(6) ホームページは、とても充実した内容であると思います。また爽やかな印象を受けました。</p> <p>【回答】 ありがとうございます。今後も改良していきます。</p>
<p>基準 8</p>	<p>(1) 学生減少の中、大変ではあると思いますが、頑張ってください。</p> <p>【回答】 収入が減り、経費削減を行うが、教育の質に影響が出ないようにやっています。</p> <p>(2) 世界的に不安定な状況が続く時代に、人と人を忠恕の絆で紡ぐ技術や人格を養う教育機関としての存在感を積み上げることで課題となる生徒数の確保につなげていただきたい。</p> <p>【回答】 患者様と接していく施術者として相応しい人格を養いたい。その為に授業以外でも関わりをもっていくようにしている。よりよい教育を続けることで充実した環境が生まれ、生徒数の確保にもつながると考えております。</p> <p>(3) 昨年はエレベーター、モップ・マット等設備投資で経費削減がみられたが、運用に関して問題はなかったか？ 更に、令和3年度、経費削減に関して取り組んだことはありますか？</p> <p>【回答】 昨年度の経費削減に対する問題は今のところ出ていない。令和3年度については借りている駐車場の一部の契約を解除し固定費の削減をした。一定の経費削減効果は出ているが、コロナ対策の換気でエアコンの燃料代(ガス)がかなり多くかかって</p>

	<p>いるが、衛生上また熱中症対策上やむを得ない部分である。</p> <p>(4)会計、監査については適切に行われていると思います。</p> <p>【回答】 ありがとうございます。今後も適切に行ってまいります。</p>
<p>基準 9</p>	<p>(1)現状維持を続けて頂きたい。</p> <p>【回答】 ありがとうございます。今後も維持に努めます。</p> <p>(2)法令遵守は重要であります。理念を土台として運用されることを深めていただきたい。</p> <p>【回答】 学校として鍼灸師等の養成に国試合格のみに注力するのではなく人格の育成に努めて行きます。</p> <p>(3)「ハラスメント対応マニュアル」の完成予定時期は決まっていますか？</p> <p>【回答】 今年7月に完成し、研修・説明会を行いました。今後は運用しつつ問題があれば修正していきます。</p> <p>(4)法令遵守のため適宜対応されていると思います。</p> <p>【回答】 今後も適切に対応してまいります。</p>
<p>基準 10</p>	<p>(1)現在のコロナ禍において、最善の方法を以て実施して頂きたい。</p> <p>【回答】 今年度になり政府等のコロナに対する対応が変わってきた。「With コロナ」が加速してきている状況。学校としては学校教育は安全であるべきという立場で安全重視で対策していきます。</p> <p>(2)理念に即した卒業生を輩出されること自体が社会貢献、地域貢献であり、そのことに付随する今後の取り組みに更に期待致します。</p> <p>【回答】 臨床実習指導者講習会等でも業界の方々の声を聞く機会があるが、臨床の現場で卒業したての学生に対するご意見をいただくことがあります。本校としても国家試験合格に注力しすぎず、社会のニーズに応えられる人材を育成していきたいと考えて</p>

	<p>いる。また、社会のニーズについて業界など外部と協力しつつ模索を続けていきたい。</p> <p>(3)「輝良ッ都フェスティバル in 稲沢」の来場者数について教えて頂きたい（令和2年度、3年度）。又、参加者の声として特徴的な意見があればお願いします。</p> <p>【回答】 私学をよくする父母の会という外部の団体のイベントで、本校は場所を貸しているだけの立場なので本校では参加者の声など把握できない部分が多くある。参加者についてはコロナ前がおおよそ 600 名、コロナ後は 400 名程度だと聞き及んでいる。</p> <p>(4)ボランティア活動等の機会を通じて、施術の良さを学生が実感できることは貴重であると思います。</p> <p>【回答】 業界団体の依頼で参加することが多く、先輩施術者の姿をみながら活動できる良い機会であるが、今のところコロナ禍でイベントそのものが中止となってしまうたりで参加できず残念に感じている。今後ボランティア活動に再び参加できる環境になったら、業界団体などと協力し、学生に場を提供できたらと考えている。</p>
<p>その他</p>	<p>自由記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアへの参加は昨今の社会情勢だと難しい部分がある。参加した学生に不利のない環境か気になっていたが、説明を聞き安心した。 ・コロナのみならず、社会情勢は変わってきている。確かな医療技術を基本とし、今後を見据えて対応して欲しい。 ・高齢の患者さんの人生の終わりに携われる良い仕事だと思う。お金だけでなく良い経験が得られる。 ・スポーツで捻挫、腰痛などで困ったときに施術を受けたらとても良くなった。学生である息子はそういった患者さんの実感や体験にまだあまり触れていないように思う。今後ますます周りの皆さんの影響を受け技術向上に努め将来に向かって欲しいと思う。 ・ご努力にいつも感謝しております。 ・社会の変化が大きく、今後も変わっていくと思われる。雇用に関して働き方改革などの影響やインターネット技術も大きく関わってくる。個人の事業規模では簡単に対応できない。ただ、しっかり働けば仕事はあるので学生の働く目標になるように雇用側の業界もいろいろな情報交換をしていきたい。 ・60 歳になっても施術で仕事ができる素晴らしい職業だと思う。生涯働けることに魅力を感じる。 ・患者様に寄り添っていると人生の相談を受けたりする事もあり、施術技術以外でも日々精進しないといけないが、大変やりがいを感じている。こういった仕事の魅力

を学生に知ってほしい。

- ・しっかりと資格を取って、患者様と向き合い施術をしていくことで有意義に資格を活用してほしい。そういったことが業界の底上げにもあるのではないかと考えている。

最後に学校側から

10年ほど前に比べ、独立して会社を大きくしてというような目標の学生は減ってきているように思う。しかしながらスポーツトレーナーというような新しい目線で資格を活用したいと考えるものや、患者様の悩みを解消してあげたいというモチベーションを持つ学生は多くいるので、業界と意見を交換しながら社会ニーズをとらえ、地域に貢献できる施術者を育成できるようにしたい。